

保健栄養学特論 (2単位)

担当者氏名 川野 因・日田 安寿美・多田 由紀

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

WHO は健康を単に疾病の有無ではなく、肉体的・精神的・社会的に良好な状態と定義している。本特論ではヒトを対象に健康の保持・増進、さらには生活の質 (QOL) の向上を目指した環境整備の一環としての食事や身体活動のあり方を検証することとする。そのためには、ヒトの健康状態を「人間まるごと」の目線で科学的に評価できることが重要である。また、食事・身体活動の在り方を実験的介入試験や疫学調査を用いて検証するスキルの習得が求められる。よって、本特論では国内外の健康づくり施策やスポーツ・栄養学の最新動向を中心に講義を展開し、保健分野での栄養施策に反映できるデータの取りかたに関する基本的スキルの修得を目指す。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

健康づくり	食環境	食生活・食事	身体活動
客観的情報	主観的情報	ライフステージ	ライフスタイル

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	保健栄養施策	国内外の各種保健栄養施策	保健栄養政策に採択されるためには客観的妥当性が必要である。本講義では学生と教員が互いに議論することを重視する。授業では、ヒトの生活場面に焦点を当てて、政策立案に採択できる科学的根拠とは何か、その試験法の習熟を目指すものとする。
2	法律制定の背景要因①	健康増進法、健康日本 21 (第二次) の制定	
3	法律制定の背景要因②	食育基本法制定と食の役割	
4	現代的保健課題①	健康日本 21 施策と食事・食生活の役割①	
5	現代的保健課題②	健康日本 21 施策と食事・食生活の役割②	
6	現代的保健課題③	子どもにおける保健の現状と課題	
7	現代的保健課題④	成人における保健の現状と課題	
8	現代的保健課題⑤	高齢者における保健の現状と課題	
9	ヒト試験の計画	ヒトを対象とした実験計画 (倫理指針とその取扱い)	
10	ヒト試験の課題	ヒトを対象とした実験計画作成上の課題	
11	ヒト試験の解析①	無作為化比較試験とその検証例	
12	ヒト試験の解析②	クロスオーバー試験とその検証例	
13	ヒト試験の解析③	コホート研究とその検証例	
14	ヒト試験の解析④	横断研究とその検証例	
15	まとめ		

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

特になし / / ()

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

随時紹介する / / ()

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポート (50点) 及び毎時の小テスト (50点)

◆その他受講上の注意事項

日頃からヒトの生活・行動に興味と関心を持ち、現状を謙虚にみつめ、分析する態度を持ちながら、授業には積極的に参加することを望む。